



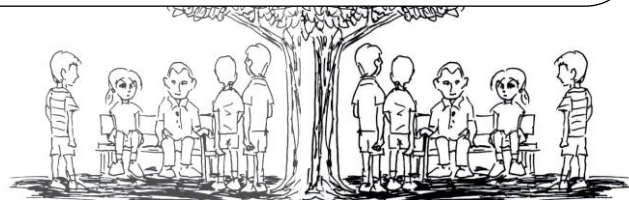
開物成務

平成31年 1月 9日(水)発行

校長 津田 将美

ひとつの見方では わからないこと

4年生の国語の授業後の感想です。



私は「プラタナスの木」を読んで、見方を変えるといんしょうや考えかたがすごく変わると思いました。理由は、今までプラタナスの木はただある木だったけれど、見方が変わって、公園全体を守っている木という考え方になったからです。…見方を変えてみるのがどれだけ大切であるか考えたけいけんがあるからです。

毎日通学路を通るとき、細谷さんという人が歩道橋の前の横たん歩道を見守ってくれています。今まではとくに、自分にとってとくべつでもないような関係でした。ですがある日、細谷さんが朝見かけることがなくなりました。それから何日かたち、体調が悪くなったことを知りました。…なぜかとても悲しい気持ちでした。…今まではただ見守っている人だったのが、見方を変えると大きな命に関わる事故をふせいでくれている大切な人だと思いました。見方を変えるのは、とても大切なことだと思いました。

プラタナスの木を読む前はあたりまえだと思っていたことが、どれだけ大切なのか、よくわかりました。これからは、一つ一つのことを見たままでだけでなく、考え方を変えて心で見るようにしたいとおもいました。

4年生の国語の教科書に「プラタナスの木」という教材文があります。子どもたちが集まる公園に立っているプラタナスの木とその側にいつもいて、子どもたちをあたたく見守っているおじいさんのお話です。台風によってそのプラタナスの木が倒れてしまったことから、おじいさんの姿も見えなくなり、子どもたちの心の中も少しずつ変化していきます。読み終わると不思議な感じが残り、なぜか心があたたくなる素敵なお話です。

上の感想からは、このお話を通して、自分の実体験と重ね合わせながら、大切なことに気づいていく心の様子が生き生きと伝わってきます。

以前、この開物成務でも細谷さんのことを紹介させていただきました。子どもたちの心にこのように細谷さんが印象づけられていることが、とてもうれしいです。そして、ただ細谷さんに親しみと感謝の気持ちを向けるだけではなく、自分の身の周りにあるすべてのものをそのような広い視野で見ていこうとする心のあり方に感心させられます。

学級担任が時々、授業後の子どもたちの感想を見せてくれます。子どもたちの感想を読むと、授業の中で様々な見方や考え方にふれることで、自分の考えを広げていることがわかります。そんな感想を読むたびに、たくさんの個性が重なり合い、表現し合っている教室って素敵な場所なんだなあと感じます。

2019年が、スタートしました。授業だけでなく学校生活の多くの場面で、子どもたちが多くの考えにふれ、理解し、自分の成長につなげていくことができるような1年にしていきたいと思います。

本年も、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

交流活動を通して ふれあうことから 生まれるもの

12月には、様々な交流活動が行われました。他学年とのふれあい、スポーツクラブとのふれあい、外国の方とのふれあい等子どもたちは、生き生きと活動していました。また、そこから得るものもとても貴重なものばかりでした。

人とのふれあいは、自分自身を見直し、見方を変えるひとつのきっかけとなります。つまり自分自身の心の幅を広げてくれるものなのです。教室の中にとどまらず、学年で、学校全体で、地域でのふれあいを通し、豊かな体験と学びをしていってほしいと思います。

12月12日 あそびランド

1,2年生

体育館に入るとそこは熱気に包まれていました。体育館いっぱいに広がったそれぞれのコーナーには、工夫された楽しそうなゲームがたくさん用意されていました。

「校長先生もやって。賞状があるよ。」

入ってすぐに、2年生に声をかけられました。見ると、カーリングのような力の入れ具合で得点が決まるゲームに行列ができていました。列の最後に並んで、自分の番が来て、大人げなく神経を集中して、高得点を出しました。「校長先生すごい！！じゃ、賞状あげるね。」ほめられて、やっぱりいい気分でした。

ゲームをしている1年生は、本当に楽しそうで、手にした賞品や賞状をうれしそうに見せてくれました。一生懸命準備をしてこの日を迎えた2年生も、とても誇らしげです。

やさしくてたくましいおにいさん、おねえさんとのふれあいが、1年生をまた一步、成長させてくれたようです。



12月12日 国際交流

5年生

東海大学の留学生6名が来校され、5年生との交流活動が行われました。留学生のみなさんの国籍は様々で、5年生から楽しく日本の文化や生活の様子を紹介された後、それぞれの国の紹介をしてくださいました。

5年生は、とても明るい雰囲気的交流し、ふれあい活動を楽しんでいるようでした。留学生のみなさんも、とてもいい笑顔で子どもたちと接してくださいました。

交流会の最後には、卒業式の退場曲「YUME 日和」で退場していただき、感謝の気持ちを贈りました。見ている方も思わず感動してしまう素敵な交流会でした。



体育館で、「阿波踊り」や「さいさい節」をいっしょに踊って、日本の良さ、開成町の良さを伝えていました。



12月18日 湘南ベルマーレボール寄贈式 2年生

ボールの寄贈式の前に、サッカーの授業を受けました。パスは「思いやり」であること、プレーする上で「助け合うこと」「協力すること」「相談すること」が大切であること、そのことは家でも学校でも大切にすべきだということをお教いただきました。そして、「ありがとう」という言葉も大切にしてほしいことを伝えられました。小学校の体育の授業でも是非参考にしたい、見方、考え方を広げるすばらしい授業でした。湘南ベルマーレのみなさん、ありがとうございました。

授業の最後にボールと旗の寄贈を受けました。いただいた旗は、2Fの渡り廊下に掲示してあります。



上原選手は、山下先生の高校の後輩です。